

第6章 ふれあい月間調査（令和4年6月期）

（児童・生徒調査）

6-1 回収状況

区立小中学校の児童・生徒全員を対象としていじめや不登校などの悩みの把握を行うふれあい月間調査を実施している。令和4年6月の実施時には、ヤングケアラーを把握するための設問「家事や家族の世話などで、勉強や遊びの時間をつくるのが難しい」を追加して調査した。

図表 6-1 回収状況

	対象者数	回答数（回収率）
小学生	33,666 人	32,966 件（97.9%）
中学生	13,449 人	12,691 件（94.4%）

6-2 調査結果

区立小・中学校全校で、いじめや不登校などの悩みを把握する目的で行っているふれあい月間調査に、ヤングケアラーを把握するための設問を追加した。「家事や家族の世話などを行うことで、勉強や遊びの時間をつくるのが難しい」の設問に「はい」と答えた子どもの数は、世話をすることで遊ぶ時間や勉強する時間に影響が出ている子どもの数である。

家庭と生活状況調査では、【問 16】「お世話をすることで次のようなことがありますか」により、世話をすることによる影響を尋ねている。【問 16】で「自分の時間や友だちと遊ぶ時間が取れない」の区分を選んだ子どもの数は、小学6年生で25人（0.46%）、中学2年生で18人（0.43%）であった。調査方法（記名式、無記名式など）の違いや設問の設定により、結果に差が出ていると考えられる。

【設問】(単一回答) 家事や家族の世話などを行うことで、勉強や遊びの時間をつくるのが難しい。

図表 6-2 調査結果(全体状況)

	「はい」と答えた子どもの数	対象者数に占める割合
小学生	489人	1.5%
中学生	41人	0.3%

図表 6-3 調査結果(学年別状況)

小学校	対象者数(割合)	中学校	対象者数(割合)
第1学年	215人(3.9%)	第1学年	25人(0.6%)
第2学年	102人(1.8%)	第2学年	10人(0.2%)
第3学年	68人(1.2%)	第3学年	6人(0.1%)
第4学年	54人(1.0%)	/	
第5学年	30人(0.6%)		
第6学年	20人(0.4%)		
計	489人(1.5%)	計	41人(0.3%)
小中学校計		530人(1.1%)	